

組織目標評価報告書(2019年度)

部局名:

大学院医歯薬学総合研究科 歯学系

部局長名:

浅海 淳一

目標・取組		目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域		
<p>1) 大学院生のニーズの多様化に対応し、一般コースと臨床専門医コースを充実させ、融合型教育を推進する。</p> <p>2) 基礎系と臨床系分野が協力的、融合型の教育と研究を推進し、来るべき多数の臨床系教授の退職に備える体制を構築する。</p> <p>3) 学生を支援を充実させ、学生確保を推進するとともに、学生の国内外での研究成果報告を支援する。</p> <p>4) 「医療系キャンパスグローバル化プロジェクト推進会議」等において、国際交流を推進し、海外からの留学生の獲得を推進する。</p>	<p>9⑤</p> <p>10⑥</p> <p>17①【17-1】</p> <p>19②</p> <p>26③</p> <p>29④</p> <p>50①</p> <p>54④</p>	<p>教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <p>1) 臨床専門医コースの大学院生も基礎系の分野で研究できる体制を進めている。臨床のニーズに基礎系のシーズを使用して研究を進め、臨床応用すべく融合教育を推進している。</p> <p>2) 来るべき多数の臨床系教授の退職に備える体制を構築するための組織再編を進めている。それに伴って、基礎系と臨床系分野が協力的、融合型の教育と研究を推進すべく再編を進めている。まずは、病院組織である診療科の再編を進めているところである。それに並行して研究科の再編も進めている。基礎系ではまず、口腔形態学分野と口腔機能解剖学分野を口腔構造機能学分野として大講座とする予定である。</p> <p>3) 奨学金や助成金を充実させるとともに学生が国内外で研究成果を報告する際に資金援助を行っている。特に海外での研究成果発表に関しては別途支援している。2019年の10月入学は6名、2020年4月入学は38名と歯学系定員32名を大幅に超えた。</p> <p>4) 学部間協定を2019年には5校、2020年にすでに1校締結した。学部学生、大学院生、教員の国際交流を推進し、外国人大学院生を2019年10月入学で5名、2020年4月入学で3名獲得している。毎年6~8名の外国人大学院生を獲得している。さらなる獲得を目指したい。</p>
②研究領域		
<p>研究大学「岡山大学」の構築を先導的に牽引するために種々の施策を策定する。</p> <p>1. 研究の実施体制ならびに実施状況</p> <p>① 歯学系内での基礎研究と臨床研究のトランスレーショナル・リサーチの体制を確立し、歯学系融合研究を推進し、来る臨床系分野の世代交代に備える。</p> <p>② 医療系部局(医学系・薬学系)あるいは医療系部局外を含めた研究交流を推進し、学際的研究連携を推進する。</p> <p>③ 海外研究機関との交流を活性化し、国際共同研究を推進する。</p> <p>④ 歯学部先端領域研究センターでの活動を活性化し、学内外との共同研究を推進する。</p> <p>2. 研究資金の獲得状況</p> <p>① 歯学系構成員による文部科学省科学研究費の申請および採択を維持、向上を図る。</p> <p>② 共同研究、受託研究、寄付金の受入増加に努める。</p> <p>③ 認定された医療法上の「臨床中核病院」、第3期橋渡し事業「橋渡し研究戦略的推進プログラム」等のプロジェクトに、歯学部の特徴を生かして協力、参画し、積極的に基礎研究および臨床研究を推進する。</p>	<p>27①【27-1】</p> <p>34③</p> <p>35①</p> <p>37②</p> <p>38①</p> <p>41②</p>	<p>研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <p>1. 研究の実施体制ならびに実施状況</p> <p>① 臨床のニーズを基礎系のシーズを使用して研修を進め、臨床応用すべく融合教育を推進し、歯学系内での基礎研究と臨床研究のトランスレーショナル・リサーチの体制を確立し、来る臨床系分野の世代交代に備えるべく進めている。</p> <p>② 基礎と臨床の融合のみならず、医学系や工学系など医療系部局外を含めた研究交流を推進し、学際的研究連携を推進している。歯学系教員ですでに医学系分野で、研究を行っている大学院生や教員がいる。医学系分野で歯学系教員が準教授に昇任しているなど広く交流を進めている。</p> <p>③ 国際交流協定で来岡した学生や教員との交流を継続し、国際共同研究の推進に努めている。歯科放射線学分野を例にとれば、大学院修了後インドネシアに帰国した学生がハサデイン大学の分野責任者となり、共同研究を継続している。今年行われるアジア学会にも共同研究の内容を発表予定である。ここ3年間留学してきているナイジェリアからの講師もその後准教授、今年教授に昇任した。毎年共著を数編発表している。サンパウロ大学からは毎年大学院生や教員が客員研究員等々来岡し、共同研究を続けている。その中には、サンパウロからリオデジャネイロやイタリアのマルタ大学に移動したものもあり、さらに交流は世界へ広がっている。現在もチュニジア、パルステテナ、ヨルダンからの大学院生がおり、将来的に発展が期待される。各分野で同様の交流を行っている、そのことは国際共著率が、全国の歯学部で1位であったことからもその成果が伺える。</p> <p>④ 歯学部先端領域研究センター(ARCOCS)セミナーを津島地区にも公開し、著名な学外研究者、岡大次世代研究育成グループ代表者、ARCOCSから海外留学させた教員等による多彩な講演を取り入れて、活性化を図った。また、国際共同研究を推進し、全97報の学術論文うち20報を国際共著論文として発表した。</p> <p>2. 研究資金の獲得状況</p> <p>① 歯学系構成員による文部科学省科学研究費の申請および採択はかなり高い数と率を維持している。2019年の文部科学省科学研究費採択率は55.6%と高率であった。また、採択金額・新規(直接経費70,900千円、間接経費21,270千円)、継続(直接経費95,900千円、間接経費28,770千円)であった。</p>
③社会貢献(診療を含む)領域		
<p>1) 社会のニーズに合ったリカレント教育を策定し、収益事業として推進する準備を行う。</p> <p>2) 医療支援歯科治療部やスペシャルニーズ歯科センターの活動を中心として、多職種での医療連携を促進し、医療連携推進のための、人材育成、教育、研究の充実を図る。</p> <p>3) 地域の医療機関と連携し、大学病院のネットワーク化を推進することによって、「臨床研究中核病院」としてのシステム構築と機能の充実を図る。</p> <p>4) 患者サービスの向上を図り、より患者貢献ができる病院を目指す。</p> <p>5) 「外国人臨床修練制度」を利用して教育・研修を行い、国際的な人材を育成する。</p>	<p>6②</p> <p>17①【17-1】</p> <p>31⑤</p> <p>33②</p> <p>34③【34-1】</p> <p>48①</p> <p>53③</p> <p>54④</p> <p>57③</p> <p>59①</p> <p>61①</p>	<p>社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <p>1) 新リカレント教育プログラムである「岡山大学歯学部で学び直す 歯科医療従事者向け生涯教育」が2019年度に開講された。岡山大学歯学部同窓会からの要望を受け、2018年度に歯学部教務委員会よりリカレント教育システムの整備を進めることが決議されたことに端を発する。決議後速やかに担当教務委員をおき、委員会を中心としてリカレント教育整備のためのWGが設置された。WGによって作成された案は、リカレント教育立ち上げの契機となった同窓会長の確認を得た後、2019年5月の教務委員会、教授会での審議を経て認められ、同年9月から開講となった。</p> <p>2) 多職種によるがん医療連携に歯科の参画を促進するため、岡山県がん診療連携協議会で新たに歯科部門が設置され、がん診療連携拠点病院としての役割を果たした。</p> <p>3) 臨床研究中核病院としての実績においては、2015年度以降に岡山大学病院で実施された4件の医師主導治療のうち1件(25%)は岡山大学病院が主体となって行っている歯科の治療であり、同じく病院全体の58件の特定臨床研究のうち、10件(約17%)は歯科の臨床研究である。また、岡山大学病院では、ゲノム医療に関連して、昨年までにバイオバンクに488例の歯科患者の生体試料が登録されている。現在、それらの試料を活用した歯周炎検査システムの開発が進行している。今後、難治性の歯科疾患や稀少疾患等を有する歯科患者のバイオバンクへの登録症例数を増やすことを目標としている。以上のことから、岡山大学は歯科においても、基礎的な研究シーズから歯科臨床研究へとシームレスに発展させることができる全国でも代表的な研究拠点になっている。</p> <p>4) 幅広く患者を受け入れ、いろいろな状況における待ち時間を短縮し、患者が満足できる体制を整えている。その結果患者数と診療報酬請求総額は旧帝大で、人口規模もはるかに大きい北海道大学や九州大学と同程度である。このことは、十分な患者サービスを提供し、患者から選ばれ、患者貢献ができていく結果に他ならない。</p> <p>5) 毎年コンスタントに外国人臨床修練医を受け入れ教育・研修を行い国際的な人材を育成している。2018年は5人2019年は3人、エジプト、ミャンマー、パキスタンから受け入れ指導を行った。2018年には外国人患者の受け入れ施設のひとつとして、「デンタルインプラントセンター」を設置し、現在、当院と契約している国際医療のサポート業者を交えて、中国からの患者の受け入れのための体制(日本側、中国側)について具体的に協議しており今後、受け入れを開始する計画である。</p>
④管理運営領域		
<p>歯学部へ統合</p>	<p>関連する年度計画の番号</p>	<p>管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p>